

[別紙 2]

論文審査の結果の要旨

申請者氏名 許 武悦

米をめぐる貿易のありかたは、韓国においても食料・農業政策上もっともセンシティブな問題であり、ときとして内政と外交の両面で鋭い政治的な対立を生んできた。一方、米の貿易政策については、国際的な枠組みを決定する多国間交渉の場においても、あるいは決定された枠組みにもとづく政府のアクションに関しても、一定の選択肢が存在する。本論文は、こうした米貿易の意思決定問題について、ゲーム理論による数量分析を展開し、あわせて国産米の優位性を左右する製品差別化に関する計量経済分析を提示したものである。

序論に当たる第1章では、米の貿易問題の性格を整理するとともに、論文のねらいと構成を述べている。続く第2章では、数量分析の準備として韓国の米経済と米政策の推移を概観している。そのうえで、政府による価格管理、生産者協同組織の機能、さらに高い参入障壁の存在のもとで、米の貿易問題を国際的な寡占モデルによって解明することの意義が示される。

第3章に始まる3つの章では、政府の意思決定問題の構造について、それぞれに異なった角度から数量的な分析を提示している。第3章では、まずベースラインの分析として、国産米保護の手段に関税・生産者補助金・為替レートの3つを想定したうえで、韓国と外国の二人ゲームによるクールノー解が示される。結果は、想定された保護の水準に応じて、米市場の17%から45%を輸入米が占めるというものであった。続いて、同じモデルに代替性パラメータを組み込むことで品質格差の効果を評価し、製品差別化戦略の有効性を示した。さらにプレイヤーを韓国・合衆国・中国の三者とするクールノー解の分析を通じて、国際市場の競争構造の高まりが輸入米増加につながる関係が明らかにされた。

第4章では、一定の米輸入目標を自発的に設定する戦略(VIE)を取り上げて、国内市場の価格や国民の経済厚生に与える効果を分析している。モデルは、N人のプレイヤーからなる韓国生産者と輸出2国(合衆国・中国)によるクールノー型ゲームである。分析の結果、VIEが閉鎖市場に比べて消費者余剰の増大につながる関係に加えて、シェアの設定水準如何では国内生産者の経済厚生も改善されるとの興味深い命題が導かれた。続く第5章は輸入国側の相互依存関係の分析であり、用いられたモデルは韓国と日本の輸入2国をプレイヤーとし、ミニマムアクセスの設定と市場開放を戦略とする非協力ゲームである。支配戦略したがって均衡解は設定されたアクセス数量に対応して変化するが、韓国の立場からは、戦略の移行域としてミニマムアクセス90万トンから190万トンの領域がクリティカルであると判定された。

第6章では、第3章で製品差別化戦略の有効性が明らかにされたことを受けて、韓国の

消費者の米品質に対する評価について、詳細な計量経済分析を行っている。取り上げられた品質要素は外観・香り・食味・食感の4つであり、計測にはコンジョイント分析とロジット分析が用いられた。さまざまなファインディングスが得られているが、なかでも食感が消費者の効用を左右する最大のファクターであること（寄与率34%）など、選好の基本構造が明らかにされた点が興味深い。また、仮想的な高質米と低質米の市場シェアの予測値には顕著な開きが観察された。この結果は、製品差別化による非価格競争の有効性を消費者選好の観点から支持している。

以上を要するに、本論文は米の貿易政策をめぐる意思決定について、ゲーム理論を駆使して多角的な分析を行ったものであり、農産物の輸出入をめぐる戦略研究として先駆的な役割を果たした。加えて、米の品質評価をめぐる研究はこの分野における韓国初の計量経済分析である。このように、本論文によって得られた成果は学術上、応用上寄与するところが少なくない。よって、審査委員一同は本論文が博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。